

第48回 鳥取市文化賞受賞者

いりえ くにこ ほうゆう 入江 邦子 (豊友) [華道]

【受賞理由】

いけばな三大流派の一つである小原流に入門してから、長年の間、いけばなの教授活動を続け、多くの華道教授者を育成してきた。

ひたむきに華道を愛し、多くの役職を歴任しながら次世代にいけばな文化を継承するための活動に尽力し続けている。また、日本国内のみならず、海外においても日本の伝統文化である華道の魅力を発信し、国際親善に貢献するほか、後進の指導、地域の小学生への出前講座や中学生への指導など、次世代を担う子どもたちの育成にも尽力している。

花をはじめとする草木の生命力を鋭い感性で感じ取り、一つの命ある作品を創り上げる姿勢は、人のために尽くすことで人の役に立ち、人と人との関りを大切にしてきた人生の経験の積み重ねの中で培われたものであり、鳥取の華道界を牽引する華道指導者である。

【経歴】

- 昭和35年 小原流（華道）に入門
裏千家（茶道）に入門
（昭和44年 上級資格 茶名（宗邦）取得）
- 昭和42年 華道教授者資格取得
- 昭和43年 華道教授活動を開始
- 昭和53年 小原流鳥取支部幹部に就任
- 平成3年 鳥取華道連合会幹事に就任
- 平成8年 小原流鳥取支部副支部長に就任
- 平成12年 小原流鳥取支部支部長に就任（～平成29年）
- 平成13年 小原流研究院研修士取得
- 平成14年 日本いけばな芸術協会特別会員に承認される
- 平成22年 鳥取華道連合会会長に就任（現在に至る）
鳥取市文化団体協議会理事に就任
- 平成24年 小原流功労者最高資格（教務）を授与される
- 平成30年 小原流鳥取県支部連合会会長に就任（現在に至る）
- 令和2年 鳥取市文化団体協議会副会長に就任（現在に至る）
鳥取市文化芸術推進協議会副会長に就任（現在に至る）
- 令和3年 小原流名誉会員に承認される
- 令和4年 日本いけばな芸術協会名誉特別会員に承認される

【主な活動】

- 昭和43年 華道教授活動を開始
- 平成14年 第17回国民文化祭「とっとり2002」実行委員
- 平成15年 文化庁「伝統文化こども教室」事業を開催（現在に至る）
- 平成21年 ロシア沿岸地方における「第1回鳥取県文化デイズ」に参加、ウラジオストクでいけばな指導を行う
- 平成24年 「エンジン01文化戦略会議オープンカレッジ in 鳥取」実行委員

平成26年 ロシア沿岸地方における「第5回鳥取県文化デイズ」に参加、ウラジオストクでいけばな指導を行う

平成30年 鳥取市立中ノ郷中学校華道部指導員となる

【作品に対する思い】

受け継がれてきた伝統的な花のかたちと現代空間に対応した花のかたちとを融合し、より多くの人に親しまれる花をいけることを目指しています。

また、花の持つ命をいかし、いきいきとした草木の姿を表現することを心掛けています。

花と向き合い、語らいながらいけることで、その作品に心が見えてきます。形や技術にとどまらず、そうした花への想いも次世代へ引き継ぐことができるよう努力してまいります。

【活動に対する思い】

長い歴史の中で、いけばなは伝統文化として確固たる地位を確立し、形が決まっています。しかし、時代は変化していき、現代では伝統的ないけ方にとられない自由なスタイルも出てきています。これは、人々の生活様式や生き方の変化など、住空間の西洋化、個人を尊重する思想などが影響しています。

近年は、世界の多くの人たちがいけばなを親しむようになり、SNSなどで拝見することができますが、その国らしい花材や色彩を取り入れながら、いけばなを楽しんでおられます。

オンラインでの稽古も可能になり、変わりゆく時代についていくことは容易ではありませんが、いける人の花に対する心は変わることはありません。日本の伝統文化であるいけばな芸術を次世代につなぎ、いけばなの素晴らしさが、日本はもとより、世界に広がっていくことを願って活動しています。

【写真】



日本いけばな芸術展 出品作